

# American Rock Lyric Landscape



—アメリカン・ロック・リリック・ランドスケープ—

ロックの歌詞から見てくるアメリカの風景

文=ジヨージ・カックル

イラストレーション=花井祐介

第23回

## グレートフル・デッド 「トラックイン」

一つの単語に“新たな意味”を加えた名曲



Grateful Dead  
“American Beauty”  
Warner Bros. OWS1893 [1970]  
©Rhino©8122-74397-2

アリーに行く時にたくさんのトラックで機材を運ぶから、この言葉を選んだのだろう。  
‘chips’とは博打で使うチップのこと。  
‘chips cashed in’は、そこでギャンブルを止めてチップをディーラーに現金化してもらったことだが、もつと深い意味もある。よくない状況にいる時、止めたり、あきらめたりすること、そして死ぬことも指す。  
。儲けを清算して、旅に出よう。どこまでも行こう、ドゥーダー・マンみたいに。  
このドゥーダー・マンとは、19世紀半ばのアメリカを代表するソングライター・ステイヴン・フォスターの「キャンプトウン・レイシズ」のサビから言葉を借りただけのようだ。同じような仲間たちで、どこまでも一緒に度々続けるだけだ。

Arrows of neon and flashing mar-  
quees out on Main Street  
Chicago, New York, Detroit and it's  
all on the same street  
A typical city involved in a typical  
daydream  
Hang it up and see what tomorrow  
brings

Together, more or less in line  
Just keep truckin' on

最初の「Truckin'」という言葉は、そもそも車のトラックに由来し、運んでくる移動する、という意味合いだ。そしてこのデッドの曲が流行ってからは、「Truckin'」という言葉が、旅をする、という意味で使われるようになった。キートンズは「ッ

この曲はグレートフル・デッドの1970年のアルバム『アメリカン・ビューティ』に収録され、作詞家ロバート・ハンターがバンドと一緒にツアーしたときの印象を曲にしたものだ。彼らのライブで演奏された回数が、トップ10に入るほどの作品だ。

Truckin', got my chips cashed in  
Keep truckin', like the Doodah man

メイン・ストリートでは、ネオンの矢印やハマーキー√がキラキラ光っている。‘marquee’とは、ライブ会場やホールの前にある、出演者名を記した看板を指す。でも、シカゴ、ニューヨーク、デトロイトとツアーで移動しても、どの街も同じ一本の通りの上。つまり、全部同じに見えるという。ありふれた都会のありふれた白昼夢。次の‘Hang it up’は電話を切る時に使うが、ここでは、もう諦める、という意味。そして、明日が自分たちに何を運んできてくれるか、見てみようという。

Dallas, got a soft machine  
Houston, too close to New Orleans  
New York, got the ways and means  
That just won't let you be

ダラスはソフト・マシンの。‘soft machine’は、61年に出版されたウィリアム・バロウズの小説のタイトルだ(有名バンドの名前にもなっているよね)。ソフト・マシーンとは人間の体のことで、そこに様々なコントロールのメカが入ってきてし

まうという話だ。ヒューストンはニューオリンズに近過ぎる、とあるのは、バンドのメンバーの何人かがニューオリンズで警察に捕まったことに由来する。ニューヨークは何でもかんでも便利だけど、君の自由にはさせてくれな。‘ways and means’にはやり方や行方という意味があるが、もうひとつには、同名の「ニューヨークにある国の税金の法律をつくるエンジニア」のことを歌っていると予測できる。

Most of the cats that you meet on the streets speak of true love  
Most of the time they're sitting and crying at home  
One of these days they know they got to get going  
Out of the door and down on the street all alone

道端で会う奴らは、みんな真の愛について語っている。‘cats’は、奴ら、という意味。彼らは、実は家でひとりぼっちで泣いている。でも、いつか彼らも家を出て行かねばならぬことをわかっている。

立ち上がってドアを開け、一人でストリートに出ていかなければ。‘down on the street’は単なる道のことだけではなく、人生の道に踏み出すという意味もある。

truckin', like the doodah man  
Once told me you got to play your hand  
Sometimes the cards ain't worth a dime  
If you don't lay 'em down

ドゥーダー・マンのよう旅している。彼がある日、俺に言ってくれた。自分のカードでプレイしなければならぬ。この‘hand’は、持っているランプの手のこと。下ろしてしまえば価値のなり手でも、それで戦うしかならぬ時もあるんだ。と言っている。

Sometimes the lights are shining on me  
Other times I can barely see  
Lately it occurs to me  
What a long strange trip it's been

時には光が俺に差し、またある時には暗闇のこともある。‘Lately it occurs to me’でも、最近わかってきたんだ。そし

て、今まではなんと長い不思議な旅だったと歌っている。この 'What a long strange trip it's been' は 'アメリカではよく使われる言葉だ。

What in the world ever became of

Sweet Jane

She lost her sparkle you know she

isn't the same

Living on reds, vitamin C and cocaine

All a friend can say is ain't it a shame

「スウィート・ジェーンに何が起ったんだ? もう昔のような輝きがなくなつて、レッズ(落ち込むドラッグ)やビタミンCやコケインだけで生きてる。ドラッグばかりやっている人は、老けるのが早い。ビタミンCを摂ってれば何でも治るといふ伝説があつた時代だ。しかし、デッドのファンによくある考えが、この最後の一行だ。'All a friend can say is ain't it a shame' = 友達として、言えることは残念という言葉だけ。デッドのファンは自分たちの生き方を否定しないものだ。たとえジェーンがドラッグの世界に入り込んで

イラスト後送

でいっても、友達だったら否定しない。それは彼女のチョイスだからなんだ。

truckin', up to Buffalo

Been thinking, you got to mellow slow

Takes time, you pick a place to go

And just keep truckin' on

「バッファローまで旅している。ゆっくりに行こうと最近思い始めた。時間はかかるが、行き先を選び、そこに向かうんだ。

Sitting and staring out of the hotel window

Got a tip their gonna kick the door in again

I'd like to get some sleep before I travel

But if you got a warrant I guess you'

re gonna come in

「ホテルの窓辺に座つて外を眺めている。誰かがチクれば奴らはまたドアを蹴破りここに戻ってくるだろう。警察が部屋に乗り込んでくることを歌っている。旅に出る前にもちよつと寝たいのに、ほつといてく

れない。だって、warrant = 礼状を持つているんだつたら、仕方がないんだから。

Busted, down on Bourbon Street

Set up, like a bowling pin

Knocked down, it gets to wearing thin

They just won't let you be

「バーボン・ストリートでバストされてしまった。先にも触れたが、デッドのメンバーは70年にニューオリンズのバーボン・ストリートで、ドラッグで逮捕された。これは本当の話だ。ボーリングのピンみたいに 'set up' されたという。'set up' とは、はめられた、とらふこと。誰かにチクられたという意味だ。そして 'knock down' された。これもボーリングの言葉を借りている。ピンが倒れることをノックダウンというからね。ホタシニングも同じだ。'wearing thin' = もろくなることはやっつけてられない。警察や世間は自分たちを自由にさせてくれないんだ、と歌う。

You're sick of hanging around and

you'd like to travel

Get tired of traveling and you want to settle down

I guess they can't revoke your soul for trying

Get out of the door and light out and

look all around

「君はぶらぶらするのが嫌になって、旅に出たくなり、旅に疲れたらどこかに落ち着きたくもなる。この 'hanging' はぶら下がるではなく、ぶらぶらすると意味だ。でも、魂の奥から突き動かされるように、旅に出ようとすると時には誰も止められない。ドアから出て、光に当たつて、回りを見回してみよう。

truckin', I'm going home

Wo wo baby back where I belong

Back home, sit down and patch my

bones

And get back truckin'

on

「もう俺は帰るよ、自分の居場所に。家に着いたら、



ジョージ・カックル / GEORGE COCKLE  
ラジオ・パーソナリティ。1956年、鎌倉生まれ。18歳で新宿2丁目のロック・パーク開拓地で、音楽の世界にのめり込む。ハワイアンなどのCDをプロデュースする傍ら、インターFMでは音楽番組「レイジーサンデー」のパーソナリティをつとめ、音楽通ぶりを披露。さらにサーフ・イヴェントなどのMCでも活躍。  
http://whatsupmusic.inc.com

なサプライズもあるんだね。

